

大川地区街並み再現

石巻被災4集落の模型展示

東日本大震災の津波で甚大な被害を受けた石巻市大川地区の4集落の街並みを復元した大型模型が、16日から大川コミュニティセンターで初めて展示される。21日まで。

地域の記憶を後世に伝える「大川地区『記憶の街』模型復元プロジェクト実行委員会」が主催する。模型の面積は計39平方メートル。震災後に災害危険区域になった釜谷、間垣、長面、尾崎のかつての様子を500分の1の大きさで復元し、元住民の思い出を記したアクリル片の「記憶の旗」が並ぶ。

模型は、実行委や神戸大などが住民への聞き取りに基づき2017年に作った。これまでは市の震災遺構「大川小」に隣接するプレハブ小屋で一部を展示してきたが、昨年7月に開所した大川コミュニティセンターに元住民が集う機会をつくらうと企画した。

15日は実行委メンバーら10人が模型を設置した。事務局の一般社団法人「長面浦海人」理事の中島みゆきさん(56)は「住民の方々が思い出を共有し、これからの大川地区を考えるきっかけにしたい」と話した。

入場無料。午前10時～午後5時。19日は大川地区を巡る無料バスも運行する。定員約30人で申し込みが必要。連絡先は長面浦はまなすカフェ0990(7330)3311。

あすへ

東日本大震災



大川地区の4集落の街並みを復元した模型